

令和8年度

予算概要

にぎわいスポーツ文化局

目 次

	頁		頁
I 令和8年度にぎわいスポーツ文化局予算案について ······	2	III 令和8年度にぎわいスポーツ文化局予算案総括表 ······	25
予算額の概要			
予算編成の考え方			
1 戰略的なにぎわいの創出		IV 予算科目別内訳 ······	26
2 観光・M I C E の振興		1 にぎわい総務費 ······	26
3 スポーツの振興		2 文化芸術創造都市推進費 ······	27
4 横浜文化の創造		3 スポーツ振興費 ······	30
		4 にぎわい観光M I C E 振興費 ······	32
II 令和8年度にぎわいスポーツ文化局 主要事業 ······	4	V 主な財源創出の取組 ······	35
1 戰略的なにぎわいの創出 ······	4		
コラム 水際線まちづくり ······	6		
2 観光・M I C E の振興 ······	7		
(1) 持続可能な観光・M I C E の推進と市内経済の活性化			
(2) 魅力あふれる観光コンテンツの創出			
(3) グローバルM I C E 都市としての競争力強化と魅力向上			
3 スポーツの振興 ······	10		
(1) スポーツに親しむ環境づくり			
(2) スポーツを通じた共生社会の実現			
(3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による市内経済の活性化			
(4) スポーツ施設を中核とした地域活性化			
4 横浜文化の創造 ······	13		
(1) 文化体験の充実を通じた次世代育成			
(2) 文化芸術によるまちのにぎわいの創出と国内外への発信			
(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり			
(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備			
◆ トピックス ······	16		
① GREEN × EXPO 2027と連動した都心臨海部のにぎわい創出			
② こどもの参加機会の充実と子育て世代向けの取組			
③ 共生社会の実現			
④ 地域の活性化			
⑤ 脱炭素の推進			
⑥ グローバル都市の推進			

I 令和8年度 にぎわいスポーツ文化局予算案について

予算額の概要

8年度のにぎわいスポーツ文化局の一般会計予算額は、171億6,011万円、対前年度8億9,757万円（5.0%）の減となっています。

主な減額理由は、横浜能楽堂大規模改修工事における工事が完了したことによるものです。

区分	8年度予算額	7年度予算額	増減
一般会計	171 億 6,011 万円	180 億 5,768 万円	▲8 億 9,757 万円 （▲5.0%）

※内訳は 25 ページのにぎわいスポーツ文化局予算案総括表を御覧ください。

予算編成の考え方

国際観光都市に向けた水際線をはじめとする観光資源の魅力を磨き、最大限に生かしつくすとともに、誰もがスポーツや文化活動に参加できる機会と楽しめる環境を充実させることで、市内経済の活性化、市民・来街者的心身の充足を図り、「観光やスポーツ・文化により、にぎわい・活力のあるまち」の市民実感の向上を目指し施策を推進します。

また、社会課題や市民ニーズに対応するための6つの視点も重視しながら取り組みます。特に、1年後に迫ったGREEN×EXPO 2027に向け、誘客促進につながる連動した施策の展開や、会場と都心臨海部との相乗効果を高める仕掛けづくりを進めています。

○横浜市中期計画2026-2029の成果に寄与する施策に 新中期マークを付けています。

令和7年12月、横浜市中期計画2026-2029の素案を公表しました。本計画では、市民の皆様の実感を評価の軸として、目標に向けて柔軟に必要な取組や手段を選択し、実践していくスキームとし、市民の皆様の暮らしの意識や状態を定期的に把握しながら、「4年間で重点的に取り組む戦略や取組」と「市政の基礎となる個別分野別計画の事業等」を連動させ、市民生活の向上を目指すこととしています。本計画の初年度となる令和8年度の予算案は、この趣旨を踏まえ、本計画の目標達成に向け、編成しています。

横浜市中期計画2026-2029(素案) 政策指標
観光やスポーツ・文化により、にぎわい・活力のあるまち

市内経済の活性化、市民・来街者的心身の充足

観光資源の魅力を磨き、
最大限に生かしつくす

【1 戦略的なにぎわいの創出】
【2 観光・MICEの振興】

スポーツ・文化活動の参加機会と
楽しめる環境の充実

【3 スポーツの振興】
【4 横浜文化の創造】

視点① GREEN×EXPO 2027と連動した都心臨海部のにぎわい創出

- ・誘客の促進につながる連動した施策の展開
- ・会場と都心臨海部との相乗効果を高める仕掛けづくり

視点② こどもの参加機会の充実と子育て世代向けの取組

視点③ 共生社会の実現

視点④ 地域の活性化

視点⑤ 脱炭素の推進

視点⑥ グローバル都市の推進

1 戰略的なにぎわいの創出

都心臨海部の水際線に数多く広がる魅力的な公共空間等を積極的に活用し、大規模イベントの開催を支援するとともに、IPコンテンツ等と連携することで、戦略的に回遊性向上・宿泊促進を図り、にぎわいの創出や市内経済の活性化につなげます。花火や早朝クルーズ、熱気球搭乗体験など「夜まで楽しめ、朝から楽しめる」コンテンツを造成し、宿泊需要の更なる喚起と観光消費の拡大を図ります。また、eスポーツを活用したにぎわい創出に取り組みます。「Live ! 横浜」では都市型音楽フェスと連携し、公共空間での市民参加型ステージや体験コンテンツを展開します。「ヨルノヨ」では光と音楽の演出を通じて横浜ならではの美しい夜景の魅力を一層高め、ナイトタイムエコノミーの促進につなげていきます。

2 観光・MICEの振興

「横浜市観光・MICE戦略」に基づき、事業者や地域、市民の皆様と共にオール横浜で持続可能な観光・MICEを推進します。特に、2027年からスタートするGREEN×EXPO 2027と連動して、今後の観光消費額を牽引するインバウンド誘客や、花をテーマとしたプロモーション等の誘客事業をDMO（※）である横浜市観光協会と共により一層強化し、宿泊の促進・滞在時間の延長を図ることで観光消費の拡大につなげます。また、近年MICEにおいて重視されているサステナビリティの対応力強化など受入環境の整備を推進することで国際競争力を高め、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等の誘致・開催支援に取り組み、市内経済の活性化につなげます。あわせて、こどもたちをはじめとした市民の参加機会拡大に取り組みます。さらに、観光地域づくりの司令塔としてのDMOの機能を充実させるため、情報発信機能を強化します。

（※）観光地域づくり法人（DMO：Destination Management/Marketing Organization）：地域の多様な関係者と協働し、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりの司令塔となる法人

3 スポーツの振興

心豊かな市民生活の実現を図るため、誰もがスポーツを身近に感じられるまちづくりを目指し、年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、こどもたちをはじめとした誰もがスポーツを「する」「みる」「ささえる」機会、また、それらのきっかけとなる「ふれる」機会の創出に取り組みます。地域に根ざしたスポーツの推進、各区スポーツセンターの維持・修繕やその他スポーツ施設の管理運営、民間事業者等と連携したスポーツ体験機会の提供などを通じて市民の多様なスポーツ環境の充実を図るとともに、「2026 世界トライアスロン横浜大会」等、大規模スポーツイベントの誘致・開催を通じてまちのにぎわいや市内経済の活性化につなげます。

4 横浜文化の創造

心豊かな市民生活の実現を図るため、横浜の強みを生かした横浜文化の創造を目指し、年齢や性別、障害の有無、家庭環境等に関わらず、こどもたちをはじめとした誰もが文化活動に取り組める環境の整備、市全域における身近な地域での文化を通じた地域コミュニティの形成、様々な主体との連携による創造性を生かしたまちづくり等によるにぎわいづくりを進めます。子どもの文化体験機会の更なる拡充を目指し、8年度からは新たに子どもアートセンターのモデル実施に取り組みます。

II 令和8年度 にぎわいスポーツ文化局 主要事業

1 戰略的なにぎわいの創出 新中期

戦略的にぎわい創出事業

3億848万円（前年度：2億9,027万円） p.32

▶大規模イベント等を活用した戦略的回遊性向上・宿泊促進

都心臨海部の水際線の魅力や公共空間等を積極的に活用し、コンサートやスポーツなどの多くの来街者が集まるイベントや、アニメ・ゲーム作品等幅広いIPコンテンツと連携することにより、イベント主催者と商業施設等の民間事業者をつなげる戦略的な回遊性向上・宿泊促進策を展開し、市内の更なるにぎわいの創出と観光消費の拡大を図ります。

あわせて、地元企業や商店街・団体等が実施主体となる横浜の歴史と魅力を生かした大規模イベントの開催を支援するとともに、IPコンテンツ等との連携による相乗効果を図ります。

▶夜まで楽しめ、朝から楽しめるコンテンツの充実《新規》

GREEN×EXPO 2027開催を契機に、夜まで楽しめ、朝から楽しめるコンテンツの充実を図ります。具体的には「YOKOHAMA NIGHT FLOWERS × GREEN×EXPO 2027」花火の打上げ、観光事業者と連携した早朝クルーズや熱気球搭乗体験コンテンツなどを造成し、宿泊需要の更なる喚起と市内観光消費の拡大につなげます。

▶eスポーツを活用したにぎわい創出

世界中が注目する急成長分野であるeスポーツを活用し、大規模大会の開催支援等を行うことで、更なるにぎわいを創出します。

eスポーツは、国籍・性別・年齢・障害の有無等に関わらず、誰もが参加できるという特徴があります。この特徴を生かし、eスポーツを通じた交流促進による、地域コミュニティの活性化につなげます。



【コンサートと連携した公共空間での
サテライト会場イベント】



©2026 & TM Spin Master Ltd. All right reserved.
【ザよこはまパレードへの
パウ・パトロール出演】



【YOKOHAMA NIGHT FLOWERS
× GREEN×EXPO 2027】



【熱気球搭乗体験】



【日本eスポーツアワード】

フェスティバルによるにぎわい創出事業

1億 7,223 万円（前年度：1億 8,082 万円） p.32

ライブエンターテインメントのフェスティバル「Live ! 横浜」は、同日に開催されるKアリーナ横浜・横浜赤レンガ倉庫・KT Zapp Yokohama・臨港パーク等を会場とする都市型音楽フェス「CENTRAL MUSIC & ENTERTAINMENT FESTIVAL 2026」と連携し、音楽とエンターテインメントでまち全体を盛り上げます。グランモール公園や桜木町駅前広場などの公共空間・オープンスペースを活用し、横浜ゆかりのアーティストや、市民の皆様・こどもたちが出演するステージや、子育て世代が気軽に楽しめる体験コンテンツなど、幅広い世代が楽しめるプログラムを展開し、回遊性の向上とにぎわい創出により市内経済の活性化につなげます。

開催概要

名 称：Live ! 横浜 2026
日 程：4月3日（金）、4日（土）、5日（日）
会 場：みなとみらい 21 地区を中心とした都心臨海部



©CENTRAL MUSIC & ENTERTAINMENT FESTIVAL 2025



撮影：大野隆介

【都市型音楽フェスとの連携】

【市内中学校吹奏楽部と
横浜市消防音楽隊によるコンサート】

創造的イルミネーション事業 『拡充』

5億 2,200 万円（前年度：3億 6,000 万円） p.32

2024年、本市は夜景そのものの美しさに加え、「ヨルノヨ」などの夜間イベントが評価され、「日本新三大夜景都市」に初選出されました。「ヨルノヨ」では、まち全体が一体となった光と音楽が連動するスペクタクルショーなど、先端技術を用いた壮大な演出により、開港以来、築き上げてきた都市景観を磨きあげ、横浜ならではの魅力的な夜景を創出するとともに、都心臨海部の各地域のイルミネーションイベントと連携し、まちぐるみで回遊性の向上を図りながら、滞在時間の延長を通じたにぎわいづくりにつなげます。さらに、GREEN×EXPO 2027の来場者等を都心臨海部へ誘客するため、夜まで楽しめるコンテンツとして、GREEN×EXPO 2027の会期中に「ヨルノヨ」を開催します。

また、都市整備局等と連携し、都心臨海部における公共空間の光環境整備など通年の演出環境づくりを進めることにより、横浜ならではの夜景の魅力をさらに高めていきます。※都市整備局「水際線まちづくり推進事業」で予算計上（1億 7,800 万円）

開催概要

名 称：夜にあらわれる光の横浜〈ヨルノヨ〉
時 期：冬頃・春～（予定）
会 場：都心臨海部一帯



【まち全体の光の演出風景〈ヨルノヨ〉】

コラム

◆水際線まちづくり

▶水際線まちづくりコンセプトプラン

臨港パークから山下公園までの水際線について、居心地がよく歩きたくなる歩行者空間の創出や、道路・公園等の公共空間を活用したにぎわいづくりなどを一体的に行い、都心臨海部の魅力を高めるまちづくりを進めるため、各局が連携して取り組みます。

日本新三大夜景都市に選ばれた夜間景観を磨き上げ、花火やイルミネーションなどのコンテンツと連動させることや、民間事業者と連携し、早朝から楽しめる熱気球搭乗体験やクルーズなど早朝の魅力を体験できる機会の充実などに取り組み、夜まで楽しめ、朝から楽しめる環境を創出することにより、滞在時間の拡大や宿泊、消費拡大につなげていきます。



※（仮称）水際線まちづくりコンセプトプラン（素案）抜粋



【照明整備（カラーライティング）】



Photo : Katsuhiro Ichikawa
【象の鼻テラス】



【YOKOHAMA NIGHT FLOWERS ×
GREEN×EXPO 2027】



【熱気球搭乗体験】



©CENTRAL MUSIC & ENTERTAINMENT FESTIVAL 2025
【都市型音楽フェス】

2 観光・MICEの振興

新中期

(1) 持続可能な観光・MICEの推進と市内経済の活性化

DMO推進事業

6億2,788万円(前年度:6億2,729万円) p.32

観光地域づくりの司令塔である横浜市観光協会と共に、データを活用したマーケティング分析に基づく国内外への戦略的なプロモーション等の観光・MICE施策の推進や観光事業者など多様な関係者の事業展開の支援を実施します。

▶ 海外誘客《新規》

海外OTA(※)と連携したデジタルプロモーション、旅行会社やインフルエンサー等を対象とした視察ツアー等、ターゲットに合わせた戦略的なプロモーションを実施し、インバウンドの誘客及び市内宿泊を促進します。あわせて、各種プロモーション機会を活用し、海外でのGREEN×EXPO 2027の認知拡大とEXPOと連動した横浜への来訪を促します。

(※) OTA(オンライントラベルエージェント): ホテル、航空券、国内外旅行の予約など、インターネット上だけで取引を行う旅行会社。

▶ 情報発信《拡充》

交通アクセス、観光スポット、イベント、宿泊、飲食など、観光に必要なあらゆる情報が一元化された横浜の観光公式ウェブサイト「横浜観光情報」を活用し、国内外に向けて横浜の観光・MICEに関する情報を発信します。また、多言語でのSNS発信で多角的に横浜の魅力を発信します。さらに、情報収集手段の多様化やAIの普及を踏まえ、インバウンド誘客を見据えたウェブサイトの大規模改修も行います。

▶ 花の港事業

GREEN×EXPO 2027の誘客を見据え、花をテーマとしたインスタレーションや移動式観光案内所などの「YOKOHAMA SHOWER FLOWERS」を開設します。実施にあたっては観光関連事業者との連携強化や、回遊性促進にも取り組み、まちの一体感の醸成を図ります。



▶ 国内誘客

市内事業者と連携して、記念日やプロポーズ、ウェディングなど、大切な人と特別な一日を楽しむことのできる特別感のあるプランを「YOKOHAMA PRECIOUS FLOWERS」としてOTAやメディア等を活用したプロモーションで展開し、平日の誘客にもつなげていきます。

▶ 市内回遊性促進プラットフォーム《新規》

GREEN×EXPO 2027 の期間中に展開される、地域・市内事業者・団体等による環境を意識した様々な取組（イベント、プロジェクト等）をまとめ、一体的に発信するプラットフォームを構築します。市域全域の取組を発信することにより、市内の回遊性促進を図ります。

▶ MICE 振興

サステナビリティの対応力強化など受入環境の整備や、ターゲット会議のリサーチ、研究者等への支援を通じたネットワーク強化により、国際会議等の誘致に取り組みます。また、セミナー開催や商談会の実施などにより市内事業者の育成やビジネス機会の創出につなげます。

観光振興事業

2億 3,296 万円（前年度 1億 6,713 万円） p.33

▶ デスティネーションキャンペーン（DC）

JRグループと地域（都道府県単位）が共同で実施する大型観光キャンペーンを神奈川県と共に進め、GREEN×EXPO 2027 会場や都心臨海部を中心とした、広域的な回遊性向上につなげます。8年度はプレDCとして、オープニングイベント等の実施、旅行会社・メディア等が参加する全国宣伝販売促進会議・エクスカーションの開催等により、観光コンテンツや魅力等のプロモーションを行い、旅行事業者による商品の造成・販売により送客につなげます。さらに、9年度の本番キャンペーンに向け、ポスター・専用ガイドブックの制作等に取り組みます。



【神奈川・横浜デスティネーション
キャンペーン ロゴマーク】

（2）魅力あふれる観光コンテンツの創出

三溪園施設整備等支援事業 《新規・拡充》

2億 1,944 万円（前年度：1億 8,795 万円） p.33

三溪園は、都心近郊にありながら豊かな緑と静寂に包まれ、美しい庭園と歴史的建造物を有する「観光都市・横浜」を代表する資源で、2026年に開園120周年を迎える、翌年に開催するGREEN×EXPO 2027との連動を図りながら、世界的に旅行需要が伸び続けているインバウンドも視野に、ライトアップや和文化体験、各種イベントを充実させるなど、三溪園の価値・魅力を最大限に引き出し、磨き上げていきます。また、重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、緊急度の高い建造物から実施しています。8年度は、旧矢箇原家（やのはらけ）住宅、旧燈明寺（とうみょうじ）三重塔及び庭園の修繕等に対し、寄附金も活用しながら支援します。



【旧矢箇原家住宅（重要文化財）】



【旧燈明寺三重塔（重要文化財）】



【桜ライトアップの様子】

(3) グローバルMICE都市としての競争力強化と魅力向上

MICE誘致・開催支援事業

7,500万円（前年度：1億7,930万円） p.33

▶ MICE誘致

横浜市観光協会や、市内の代表的なMICE施設であるパシフィコ横浜と連携し、誘致に関するキーパーソンとのネットワークづくりや、セールス活動で横浜開催を検討している会議を発掘し、トップセールスや誘致助成金の交付によりMICE誘致を加速します。



▶ MICE次世代育成事業《拡充》

国際会議等の開催に合わせ、こどもたちを対象に最先端の技術や情報に触れられる講演、ワークショップ等を開催することで、専門性の高い内容を楽しく学ぶ機会を提供します。

【「CHI 第43回 人と情報システムの相互作用に関する国際会議」7年4月 於：パシフィコ横浜】

▶ 政府系国際会議・開催支援

各区局で行う国際会議の誘致・開催支援活動等に対して、ノウハウの提供やブース出展への支援など、様々な形でサポートを行います。また、次世代育成とMICE産業の活性化を目指し、市内大学生と連携したMICEに関する課題解決プログラムを実施します。

20街区MICE施設整備運営事業

33億6,090万円（前年度：33億5,287万円） p.34

「パシフィコ横浜ノース」について、PF事业により維持管理及び運営を行います。既存のパシフィコ横浜と共に、市内経済の発展・にぎわい創出へ貢献します。



【パシフィコ横浜ノース 外観】



【パシフィコ横浜ノース 内観】

3 スポーツの振興

新中期

(1) スポーツに親しむ環境づくり

【スポーツを通じた地域課題解決事業（スポーツ関係団体支援事業の一部）『新規』】

5,000万円（前年度：－万円）p.30

スポーツ関係事業者、競技団体等から提案された「市民の健康増進」や「子どもたちのスポーツ体験機会の充実」に寄与する公益性・公共性のある事業に対し、企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）を活用した支援を行います。この支援を通じ、子どもたちをはじめとした誰もがスポーツを「する」「みる」「ささえる」機会、それらのきっかけとなる「ふれる」機会を創出します。

【横浜マラソン開催事業】

1億881万円（前年度：1億890万円）p.30

子どもから大人まで誰もが参加でき、「する」「みる」「ささえる」全ての人々が楽しめる大会を開催することで、市民の健康を増進するとともに、まちのにぎわいを創出します。

【横浜マラソン 2026】

開催概要

日程：10月25日（日）

場所：横浜ランドマークタワー前（スタート）～ 横浜南部市場前（折り返し）
～ 首都高速湾岸線 ～ 臨港パーク（フィニッシュ）



【横浜マラソン 2025】

【子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業】

1,696万円（前年度：1,776万円）p.30

児童生徒を対象としたパラアスリート等による学校訪問を実施し、子どものスポーツ活動を促進します。また、託児サービス付きイベントに加え、民間事業者等と連携して親子で共に楽しめるイベントを実施することで、子育て世代が気軽に安心してスポーツに取り組める環境をつくります。



【パラアスリート等による学校訪問】

(2) スポーツを通じた共生社会の実現

インクルーシブスポーツ推進事業

1,214 万円（前年度：1,300 万円）p.30

18 区でのインクルーシブなスポーツ体験会・交流会の実施や YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催等を通じて、年齢や障害の有無等に関わらず、誰もが共にスポーツを楽しめる機会を創出します。

また、各競技団体が主体となって行うパラスポーツの取組を、横浜市スポーツ協会、横浜市リハビリテーション事業団と連携して支援していきます。

(3) 大規模スポーツイベントの誘致・開催等による市内経済の活性化

大規模スポーツイベント等開催支援事業 《拡充》

1 億 6,120 万円（前年度：9,863 万円）p.31

昨年に引き続き、カーリングの日本選手権や卓球の世界大会の開催に加え、「第 81 回国民スポーツ大会冬季大会アイスホッケー競技会」を開催するなど、大規模スポーツイベントを通じて、横浜の魅力を発信するとともに、参加者・来訪者の市内回遊を促進し、まちのにぎわいや市内経済の活性化につなげます。

また、「2026 世界トライアスロン横浜大会」における観戦環境の向上やこども向け施策の充実に取り組みます。



© Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media
【2025 世界トライアスロン横浜大会】



【日本カーリング選手権大会 横浜 2025】



© 「WTT チャンピオンズ横浜 2025」(横浜市撮影)
【WTT チャンピオンズ横浜 2025】

(4) スポーツ施設を中心とした地域活性化

■ スポーツ施設管理運営事業等

14 億 2,846 万円（前年度：17 億 7,801 万円） p.30、31

▶ スポーツ施設の運営等（指定管理施設等管理運営事業、保守・点検・修繕事業、市民利用施設予約システム事業等）

横浜国際プール、平沼記念体育館、たきがしら会館及び屋内プール 5 施設（港南・保土ヶ谷・旭・金沢・都筑プール）の維持管理・運営を行うほか、各区スポーツセンター等について、必要な施設修繕を実施します。

また、市民利用施設予約システムの安定的な運営に取り組むとともに、市内小中学校の校庭への夜間照明設置の拡充に向け、新たに 1 校の設計に着手します。

▶ 脱炭素化推進事業《新規》

スポーツ施設の照明等への ESCO 事業の運用及び太陽光発電（PPA 事業）の導入等を計画的に進め、省エネルギーに取り組みます。

■ 屋外プール再整備事業

2 億 8,010 万円（前年度：2 億 9,358 万円） p.31

本牧市民プールを運営するとともに、横浜プールセンターの検討にあたっては、財政ビジョン等を踏まえつつ、広く市民や事業者の皆様のご意見も伺いながら進めています。



【本牧市民プール】

■ 横浜国際プール再整備事業

2,000 万円（前年度：5,000 万円） p. 31

横浜国際プールは供用開始から 27 年以上が経過し、大規模な設備等の更新が必要となっています。この機会を捉え、誰もが共に多様なスポーツを楽しめるインクルーシブなスポーツ拠点として、次世代を育む複合型スポーツアリーナを目指します。PFI での事業実施に向け、8 年度は事業者の募集・選定業務を進めます。

4 横浜文化の創造

新中期

(1) 文化体験の充実を通じた次世代育成

子どもの文化体験推進事業

4,994万円（前年度：4,494万円） p. 28

▶子どもアートセンター等実施事業《新規》

こどもたちに対し、放課後や休日に、身近な地域で気軽に立ち寄れる場における文化体験を提供する取組を、子どもアートセンターとして認定します。8年度はモデル事業とし、実施要項等を作成して公募を行い、市内6か所の認定を目指します。

モデル事業の実施成果を踏まえ、今後の展開を検討します。

▶子どもの文化体験推進事業

地域のこどもたちが集まる放課後キッズクラブや学童クラブ等における文化体験を通じて、表現力やコミュニケーション力、創造力等を育めるよう、音楽や美術などのプログラムを実施します。



上白根小学校放課後キッズクラブ
【美術プログラム（葉っぱのスタンプカード）の様子】

▶芸術文化教育プログラム推進事業

次世代を担うこどもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、こどもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等を体験できる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、学校の先生とアーティストのコーディネートを担当することで、各学校の希望に沿った効果的なプログラムの実施を支援します。



獅子ケ谷小学校
【音楽プログラム（スティールパンとあそぼう）の様子】

(2) 文化芸術によるまちのにぎわいの創出と国内外への発信

大規模文化イベントによるにぎわい創出事業

1億 1,115 万円（前年度：5,137 万円） p.27

GREEN×EXPO 2027 期間中、横浜美術館において第9回横浜トリエンナーレとともに、こどもから大人まで誰もが楽しめる文化プログラムの開催を予定しています。コンセプトの設定をはじめ、事業の企画、広報プロモーションなど、着実に準備を進めます。

映像文化都市づくり推進事業 『拡充』

3,783 万円（前年度：2,783 万円） p. 27

世界中の映画関係者や映画ファンが集い、交流するフェスティバルである横浜国際映画祭を支援するとともに、市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を実施することで、横浜の更なる知名度向上、都心臨海部におけるにぎわいの創出及び映像文化の振興につなげます。

(3) 歴史と創造性を生かしたまちづくり

創造界隈形成事業

2億 4,764 万円（前年度：2億 4,672 万円） p. 27

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を創造界隈拠点として活用し、創造的な活動や地域との連携を通して、まちづくりを進めます。象の鼻テラスについては、次期事業者の公募に向けた準備を進め、事業者を選定します。

また、都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりのノウハウを生かし、郊外部においても地域コミュニティの活性化につながる取組を進めます。

【創造界隈拠点】BankPark YOKOHAMA、地域再生まちづくり（初黄・日ノ出町地区）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）、Art Center NEW、星川駅行政区画



【象の鼻テラス】撮影：Hajime Kato

アーツコミュニケーション事業

3,716 万円（前年度：3,716 万円） p. 27

文化芸術等に関する様々な相談対応やコーディネート、情報発信や人材のネットワークづくりなど、文化芸術と社会を横断的につなげる中間支援の取組を推進することにより、市民、企業、団体、学校等とアーティスト、クリエーター等の専門人材をつなげ、文化芸術の持つ創造性を社会経済活動やまちづくりにつなげます。

また、地域のつながりやにぎわいづくりに取り組む地域活動拠点を対象に、企画運営や広報等に対する伴走支援等を行います。

(4) 市民の文化芸術活動への支援と環境整備

■ 地域文化サポート事業

2,800 万円（前年度：2,800 万円） p. 28

市内で実施される地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援することで、文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与します。

また、季刊誌「ヨコハマアートサイト」の発行やウェブサイト・実施レポート等による広報、まちづくり等、さまざまな分野と文化芸術の関わりについての意見交換を行う研修等を通して、参加団体をサポートします。



【「まちなか立寄楽団」による中区寿町で住民が気軽に参加できる「たちよってつくるコンサート 2025」】

■ 文化施設の運営等（文化施設運営事業・文化施設機能強化事業《新規》） 34 億 3,075 万円（前年度：32 億 806 万円） p. 28、29

横浜美術館、横浜みなとみらいホール、関内ホール、横浜にぎわい座等、計15の文化施設において、市民の皆様が文化芸術に触れる機会の充実を図るとともに、次世代を担う子どもたちが多様な文化芸術に親しめるよう施設運営を行います。あわせて、質の高い公演等を実施し、横浜の魅力を内外へ発信します。また、市民の皆様が施設を安全・安心に利用できるよう老朽化等対応の修繕を実施するほか、施設照明をLED化し、省エネルギーに取り組みます。

また、8年度から新たにふるさと納税の寄附金を活用し、新たな文化事業への補助や文化施設の機能を強化するための改修を行います。

■ 文化施設整備事業

3 億 5,477 万円（前年度：9,707 万円） p.29

地域特性等に応じて区民文化センターを整備することにより、市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うための環境づくりを進めます。

8年度は、金沢区における区民文化センターの9年度中のしゅん工・オープンに向けて、7年度に引き続き工事を行います。



【金沢区民文化センター（仮称） 完成イメージ】

■ 横浜版グリーンブック策定（文化振興企画調査費の一部）

100 万円（前年度：－万円） p.29

文化事業や文化施設運営を進めるにあたっての、CO₂排出量削減や循環型社会の構築に資するよう、舞台装置の再利用・再生可能エネルギーの利用などを促進するガイドラインとして「横浜版グリーンブック」を策定し、持続可能な文化活動の促進につなげます。

トピックス①

GREEN×EXPO 2027 と連動した都心臨海部のにぎわい創出

◆GREEN×EXPO 2027 と連動した都心臨海部のにぎわい創出

p.32、33

GREEN×EXPO 2027 の開催期間中に会場への来場者等を都心臨海部へ誘客するため、大規模イベント等の連携や夜まで楽しめ、朝から楽しめるコンテンツの充実、誘客プロモーションをより一層推進することにより、にぎわいの創出を図ります。

▶ 「YOKOHAMA NIGHT FLOWERS × GREEN×EXPO 2027」キャンペーンの実施（戦略的にぎわい創出事業の一部）

GREEN×EXPO2027 をイメージした花と緑をテーマとした花火を中心に打ち上げます。

▶ 夜にあらわれる光の横浜〈ヨルノヨ〉の開催拡大（創造的イルミネーション事業の一部）

例年冬季に開催している「夜にあらわれる光の横浜〈ヨルノヨ〉」の開催期間を大幅に拡大します。

▶ 体験型モーニングコンテンツの造成（戦略的にぎわい創出事業の一部）

観光事業者と連携し、朝の熱気球搭乗体験やモーニングクルーズなど、早朝から楽しめるコンテンツを EXPO 開催期間中に実施します。

▶ 回遊性促進プラットフォームの推進（DMO 推進事業の一部）

GREEN×EXPO 2027 の期間中に展開される、地域・市内事業者・団体等による環境を意識した様々な取組（イベント、プロジェクト等）をまとめ、一体的に発信するプラットフォームを構築し、市内の回遊性促進を図ります。

▶ デスティネーションキャンペーンの推進（観光振興事業の一部）

JRグループと地域（都道府県単位）が共同で実施する大型観光キャンペーンを神奈川県と共に進め、GREEN×EXPO 2027 会場や都心臨海部を拠点とした、広域的な回遊性向上につなげます。

▶ 海外誘客事業の実施（DMO 推進事業の一部）

GREEN×EXPO 2027 に向けて、OTA プロモーションや旅行会社やインフルエンサー等を対象とした視察ツアーを展開し、インバウンド誘客につなげます。



◆横浜マラソンにおける取組（横浜マラソン開催事業の一部）

p.30

GREEN×EXPO 2027 と連携し、会場やコース、関連イベントにおける、GREEN×EXPO2027 の装飾や公式マスコットの露出などにより、参加者や観戦者に向けて機運醸成を図るとともに、都心臨海部のにぎわい創出につなげます。



【横浜マラソン 2025】

◆世界トライアスロン横浜大会における取組（大規模スポーツイベント等開催支援事業の一部）

p.31

GREEN×EXPO 2027 と連携し、会場やコースにおいて、大会中継を通じた発信を念頭に GREEN×EXPO2027 の装飾を行うなど、機運醸成を図るとともに、都心臨海部の魅力発信・にぎわい創出につなげます。



© Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media
【2025 世界トライアスロン横浜大会】

◆大規模文化イベントによるにぎわい創出事業

p.27

GREEN×EXPO 2027 期間中、横浜美術館において、こどもから大人まで誰もが楽しめる文化プログラムを開催し、にぎわいを創出します。

トピックス②

子どもの参加機会の充実と子育て世代向けの取組

◆フェスティバルによるにぎわい創出事業

子どもたちが初めて楽器に触れる機会やダンス・スポーツの体験機会の提供、小中高生や子ども向けワークショップの実施、日頃の練習の成果をフェスティバルで発表する場の創出など、次世代を担う子どもたちを育む取組や親子連れの方にもゆったりと滞在できる空間づくりを行い、子ども・子育て世代の方も楽しめる、音楽を中心としたライブエンターテインメントのフェスティバル「Live! 横浜」を開催します。



【次世代を担う子どもたちへの体験機会や発表の場の提供】

p.32

◆MICE次世代育成事業（MICE誘致・開催支援事業の一部）

国際会議等の開催に合わせ、子どもたちを対象に最先端の技術や情報に触れられる講演、ワークショップ等を開催することで、専門性の高い内容を楽しく学ぶ機会を提供します。

また、市内大学生と連携し、大学生のアイディアを活用した開催支援や、MICE参加者との交流を通じたMICE産業への興味の醸成等、次世代育成とMICE産業の活性化を目指したプログラム「YOKOHAMA MICE Challenge」を実施します。



【アジアスマートシティ会議（YOKOHAMA MICE Challenge）】

p.33

◆子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業（子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業の一部）

働く世代・子育て世代のスポーツ実施率が他の年代と比べて低いため、商業施設等の子育て世代にとって身近な場所で、託児サービス付きイベントや親子で共に楽しめるイベントを民間事業者等と連携して実施します。

◆子どもの文化体験推進事業（子どもの文化体験推進事業の一部）

p.28

次世代を担う子どもたちが学校や身近な場所で文化活動に触れる体験機会を提供します。放課後キッズクラブや学校へのプロのアーティストの派遣に加えて、8年度からは新たに、子どもたちに対して放課後や休日に身近な地域で気軽に立ち寄れる場における文化体験を提供する取組（子どもアートセンター）を行います。

◆文化施設運営事業

p.28

文化施設では、子どもと保護者が一緒に描いたりつくったりすることを楽しみながら、自発的な意欲を育むことを目的とした「みんなのフリーゾーン」を横浜美術館の子どものアトリエにて行うほか、「子どもの日コンサート」において、中学生がプロデューサーとなり、コンサート制作の様々な業務を行う取組を横浜みなとみらいホールにて行います。

トピックス③

共生社会の実現

◆ユニバーサルツーリズムの推進 (DMO 推進事業の一部)

p.32

年齢や障害の有無等に関わらず、全ての方々が横浜観光を楽しめるよう、観光施設・宿泊施設のバリアフリー対応状況や、子育て世代に求められる授乳室の設置状況、車椅子やベビーカーでも移動しやすいモデルルート等の情報を発信します。

また、市内観光関連事業者向けセミナーを継続し、「心のバリアフリー（※）」の浸透を図ることで、ユニバーサルツーリズムを推進します。

（※）様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと。

◆地域・イベント等におけるインクルーシブスポーツ推進事業 (インクルーシブスポーツ推進事業の一部)

p.30

YOKOHAMA スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催等を通じて、年齢や障害の有無等に関わらず、誰もが共にスポーツを楽しめる機会を創出します。また、18 区でインクルーシブなスポーツ体験会・交流会を実施し、暮らしに身近な場所でもスポーツを通じた共生社会の実現を推進していきます。

◆パラアスリート等による学校訪問事業 (子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業の一部)

p.30

スポーツを通じた共生社会の実現に向け、競技団体やパラアスリート等と連携し、車いすバスケットボールやブラインドサッカー、陸上などの各種教室のほか、ワークショップ型授業などを児童生徒を対象に実施します。

◆文化施設における取組 (文化施設運営事業の一部)

p.28

横浜美術館では、主に発達障害の方とその家族や関係者をサポートするため、初めて訪問する方や利用に不安を感じる方など、どなたでも美術館を楽しみながら過ごせるよう、館内の様子やルールをわかりやすく案内する社会学習ツールを公開しており、引き続き活用を図ります。

横浜能楽堂では、障害の有無に関わらず、様々な方が一緒に能の謡や所作を体験したり、道具を間近で見たりする「バリアフリーワークショップ」を、他施設との共催により実施します。

横浜市民ギャラリーあざみ野では、高齢者や認知症の方が、その家族や介護者と共に安心して作品鑑賞を楽しめることを目指す「やさしい美術鑑賞プログラム」を実施します。

トピックス④

地域の活性化

◆eスポーツを活用したにぎわい創出事業（戦略的にぎわい創出事業の一部）

p.32

市民の皆様がeスポーツに触れるこことできる様々な機会を創出し、eスポーツを通じた交流促進による、地域コミュニティの活性化に取り組みます。

市庁舎や商業施設内のスペース、区役所の事業へのブース出展など、市民の皆様が多く訪れる場所や機会を捉えて、国籍・性別・年齢・障害の有無等に関わらず、誰もが参加できるeスポーツ体験会を、年間を通じて実施します。



【区民まつり等での体験会】

◆地域スポーツ団体の活動に対する取組（スポーツ関係団体支援事業の一部）

p.30

生涯スポーツの普及・振興を図るため、市民の健康増進、体力向上等、地域のスポーツ振興のために活躍している横浜市スポーツ協会、横浜市スポーツ推進委員連絡協議会、横浜市総合型地域スポーツクラブ協議会等の活動を支援します。



【総合型地域スポーツクラブの活動】

◆ヨコハマアートサイトにおける取組（地域文化サポート事業の一部）

p.28

文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与するため、市内で実施される地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援します。



【「ひよこの会」による視覚障害児と一緒に作り出すインビジブルアートの開催「ノールックみゅーじあむ」の様子】

◆文化施設における取組（文化施設運営事業の一部）

p.28

関内ホールでは「あいすくりーむ発祥記念イベント」「馬車道まつりアートフェスタ」など、馬車道商店街、地元企業、地域の大学と連携したイベントを開催します。

また、横浜にぎわい座では、国内有数の大大道芸フェスティバル「野毛大道芸」において共催するなど、各施設とも地域のにぎわい創出に取り組みます。



撮影：関内ホール
【馬車道まつりアートフェスタ】

◆地域コミュニティ活性化に向けた創造性を生かした取組（創造界隈形成事業及びアーツコミュニケーション事業の一部）

p.27

都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりのノウハウを、地域コミュニティの活性化に生かします。アーティストが地域の拠点等に滞在し、リサーチや創作活動等を行うほか、身近な地域の魅力の発信や交流を目的とした取組を実施します。



【撮影：アーツコミュニケーション・ヨコハマ】

トピックス⑤

脱炭素の推進

◆創造的イルミネーション事業における取組

p.32

ヨルノヨの開催にあたっては、廃食油を燃料としたバイオ燃料発電機の使用などにより、再生可能エネルギーによる電力割合について75%以上を目指します。また、カーボンオフセットを併用することで、イベント中に発生するCO₂の実質排出量ゼロを継続していきます。さらに、来場者の意識啓発につながるよう、会場でのパネル設置やガイドブック配布など、様々な場面を捉えて積極的にPRしていきます。

◆横浜マラソンにおける取組（横浜マラソン開催事業の一部）

p.30

協賛パートナーと連携したペットボトルの水平リサイクル、使用済み紙コップリサイクル、再生ポリエチレンを使用した参加賞Tシャツの制作、大会運営車両への電気自動車の活用に取り組みます。また、参加者一人ひとりが負担する環境協力金により参加者の大会参加の移動にかかるCO₂をオフセットするなど、環境負荷の軽減に向けた取組を実施します。

◆世界トライアスロン横浜大会における取組（大規模スポーツイベント等開催支援事業の一部）

p.31

協賛パートナーと連携したペットボトルの水平リサイクル、使用済み紙コップリサイクルを実施します。また、参加者等から集めたSDGs協力金によりブルーカーボン・クレジットを購入し、参加者の大会参加の移動にかかるCO₂をオフセットするなど、環境負荷の軽減に向けた取組を実施します。

◆横浜版グリーンブック策定（文化振興企画調査費の一部）

p.29

気候変動が進行し、日本の社会でも持続可能性に向けた様々な取り組みが広がっている中で、文化施設運営や文化事業実施にあたっても、CO₂排出量削減や循環型社会の構築に資する取組みが求められています。文化事業や文化施設運営を進めるにあたり、舞台装置の再利用、再生可能エネルギーの利用などを促進するガイドラインである「横浜版グリーンブック」を策定することで持続可能な文化活動の促進につなげます。

◆にぎわいスポーツ文化局所管施設における取組

（文化施設運営事業、スポーツ施設管理運営事業、観光施設維持管理事業の一部）

p.28、31、33

脱炭素先行地域である「みなとみらい21地区」に立地する横浜美術館及び横浜みなとみらいホールにおいて、使用する地域冷暖房の一部を、CO₂排出係数がゼロとなるプランに切り替え、脱炭素化を進めます。

また、文化施設、スポーツ施設、観光施設等において、照明のLED化や太陽光発電（PPA事業）の導入等により、省エネルギー化を図ります。

トピックス⑥ グローバル都市の推進

◆IPコンテンツとの連携による戦略的回遊施策の強化（戦略的にぎわい創出事業の一部）

p.32

これまで様々なIPコンテンツとの連携により、戦略的な回遊施策を展開してきました。今後は、特に国外にも訴求力の高いコンテンツとの連携においては、横浜の魅力的な景観を生かした回遊施策等の展開、早い段階からの情報発信など、更なるインバウンド誘客を見据えた施策を戦略的に推進していきます。

◆三溪園の魅力発信の強化（三溪園施設整備等支援事業の一部）

p.33

三溪園は、生糸貿易で財を成した実業家・原三溪によって明治から昭和にかけて造られた日本庭園です。京都や鎌倉などから移築し、国の重要文化財に指定された10棟と、横浜市指定有形文化財3棟を含む、17棟の歴史的建造物が巧みに配置され、周囲の自然環境と一体となった庭園の空間全体も国の名勝として指定されています。織田家・豊臣家・徳川家にゆかりのあるものや白川郷から移築した合掌造りもあり、価値と魅力を兼ね備えた文化財が集結した、横浜を代表する和の観光資源です。2026年に開園120周年を迎える、更なる磨き上げや、国内外に向けたプロモーション等を展開することで、インバウンドをはじめとした誘客を図ります。



【三溪園での和装体験】

◆グローバルMICE都市の推進（DMO推進事業、MICE誘致・開催支援事業の一部）

p.32、33

本市では、APEC首脳会議やアジア開発銀行（ADB）年次総会、アフリカ開発会議（TICAD）をはじめ、国際的な課題解決や外交、政策決定のための重要な場となる政府系会議、学術団体・業界団体、その他の民間組織によって主催・運営される国際会議が数多く行われてきました。引き続き、横浜市観光協会やパシフィコ横浜と連携しながら、サステナビリティ対応など国際的なトレンドを踏まえた受入環境整備を推進することで国際競争力を高め、環境分野をはじめ横浜のプレゼンス向上につながる国際会議の誘致・開催に取り組むことで、アジアを代表するグローバルMICE都市を目指します。



【第9回アフリカ開発会議（TICAD9）】

◆世界トライアスロン横浜大会の開催（大規模スポーツイベント等開催支援事業の一部）

p.31

世界トライアスロン横浜大会は、オリンピック・パラリンピックにつながる世界最高峰の大会で、山下公園を中心に、横浜ならではの美しい水際線の景観の中で競技が行われます。多くの海外からの選手の出場や大会の映像配信などを通じて、横浜のブランディングや地域の経済活性化につなげています。また大会時には、文化交流や大会運営のボランティアなど、市内学校の児童・生徒が海外選手たちと交流する機会を設け、こどもたちの多様性、国際性を育んでいます。



© Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media
【2025 世界トライアスロン横浜大会】

◆横浜能楽堂のリニューアルオープン及び久良岐能舞台（文化施設運営事業の一部）

p.28

市内には、横浜能楽堂と久良岐能舞台の2か所の能楽堂があり、インバウンドを含め多くの市民・来街者に日本の伝統文化に触れられる機会を創出しています。横浜能楽堂では、大規模改修工事を経て令和8年7月頃のリニューアルオープンを予定しています。久良岐能舞台では、TICAD 9(第9回アフリカ開発会議) 配偶者プログラムにおいて能楽鑑賞及び能楽器演奏体験の企画、運営を担いました。今後も、横浜における能楽の拠点として日本文化の発信を行っていきます。



出典：TICAD 9（第9回アフリカ開発会議）配偶者プログラム
(首相官邸ホームページ：<https://www.kantei.go.jp/jp/terms.html>)

III 令和8年度にぎわいスポーツ文化局 予算案総括表

(単位:千円)

科 目	8 年度 予算額	7 年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款 にぎわいスポーツ文化費	17,160,109	18,057,676	△ 897,567	△ 5.0	
1項 にぎわいスポーツ文化費	17,160,109	18,057,676	△ 897,567	△ 5.0	
1目 にぎわい業務費	1,511,426	1,458,592	52,834	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・職員人件費 53,934千円増 ・調査分析事業 1,100千円減
2目 文化芸術創造費 都 市 推進費	4,469,092	6,239,654	△ 1,770,562	△ 28.4	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設運営事業 137,690千円増 ・文化施設整備事業 257,696千円増 ・横浜能楽堂大規模改修事業 2,296,065千円減 ・文化施設機能強化事業 85,000千円増
3目 スポーツ振興費	4,588,061	4,816,298	△ 228,237	△ 4.7	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模スポーツイベント等開催支援事業 62,571千円増 ・スポーツ施設管理運営事業 291,578千円減
4目 観光振興費 MICE費	6,591,530	5,543,132	1,048,398	18.9	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的イルミネーション事業 162,000千円増 ・観光振興事業 65,833千円増 ・減債基金積立金 817,137千円増

IV 予算科目別内訳

1 4款1項1目 にぎわい 総務費	本年度 千円 1,511,426	前年度 千円 1,458,592	差引 千円 52,834	本年度の財源			
				国・県 千円 -	市債 千円 -	その他 千円 30	一般財源 千円 1,511,396

総務部

- (1) 調査分析事業 2,000千円 (前年度 3,100千円)
にぎわいスポーツ文化局が所管する施設・イベントに関する認知率等を調査し、施策検討の基礎資料とします。
- (2) 開港記念式典開催事業 5,680千円 (前年度 5,680千円)
開港記念日（6月2日）に市民と市政関係者が共に、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表し、開港を祝う式典を開催します。
- (3) 総務費 14,385千円 (前年度 14,385千円)
にぎわいスポーツ文化局職員の人材育成事業などを実施します。
- (4) 職員人件費 1,489,361千円 (前年度 1,435,427千円)
にぎわいスポーツ文化局職員の人件費

4款1項2目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
2 文化芸術創造都市推進費	千円 4,469,092	千円 6,239,654	千円 △1,770,562	千円 54,500	千円 360,000	千円 224,225	千円 3,830,367

文化芸術創造都市推進部

(1) 創造界隈形成事業

247,644千円 (前年度 246,722千円)

歴史的建造物や公共空間等、地域資源を活用した創造界隈拠点として、BankPark YOKOHAMA（旧第一銀行横浜支店）、地域再生まちづくり（初黄・日ノ出町地区）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）、Art Center NEW（新高島駅地下1階展示場）、星川駅行政区画の運営・管理を行い、創造的な人材や地域との連携を通したまちづくりを進めます。象の鼻テラスについては、次期事業者を公募・選定します。また、都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりのノウハウを生かし、郊外部においても地域コミュニティの活性化につながる取組を進めます。

(2) アーツコミッション事業

37,156千円 (前年度 37,156千円)

文化芸術と企業・市民等の様々な主体をつなぐプラットフォームを形成し、文化芸術の持つ創造性を生かしたにぎわいづくりと国内外における都市としてのプレゼンスを高めます。また、地域のつながりやにぎわいづくりに取り組む地域活動拠点を対象とした支援等を行います。

(3) 大規模文化イベントによるにぎわい創出事業

111,145千円 (前年度 51,367千円)

GREEN×EXPO 2027期間中、横浜美術館において、第9回横浜トリエンナーレとともに、子どもから大人まで誰もが楽しめる文化プログラムの開催を予定しています。コンセプト設定、事業企画、広報プロモーションなど、準備を進めます。

(4) 映像文化都市づくり推進事業

37,832千円 (前年度 27,832千円)

市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。

また、横浜国際映画祭の開催に向けた支援を行います。

(5) 創造都市推進事業

73,032千円 (前年度 77,399千円)

国際的アートフェア等との連携を通じ、来街者の回遊性の向上や、まちのにぎわい創出につなげます。

また、国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、都心臨海部の活性化を図るとともに、横浜発の舞台芸術を発信することで、都市のプレゼンスを高めます。

日本最大規模のジャズフェスティバルである「横濱JAZZ PROMENADE」の開催を引き続き支援します。

(6) 日中韓都市間文化交流事業

6,992千円 (前年度 7,360千円)

「東アジア文化都市友好協力都市協定」に基づき、中国泉州市及び韓国光州広域市と、アーティストや芸術団体の派遣・招へい等を通じた都市間文化交流を行います。

(7) 子どもの文化体験推進事業	49,940千円	(前年度 44,940千円)
次世代を担う子どもたちが学校や身近な場所で芸術文化に触れ、創造活動を体験する機会を提供します。8年度からは新たに、子どもたち誰もが放課後や休日、身近な地域で気軽に立ち寄れる場における文化体験を提供する取組を、子どもアートセンターとして認定します。		
また、引き続き、効果的に子どもたちにプログラムを提供するため、放課後キッズクラブや学校にプロのアーティストを派遣する「子どもの文化体験推進事業」の実施や「芸術文化教育プラットフォーム」の運営を行います。		
(8) 地域文化サポート事業	28,000千円	(前年度 28,000千円)
横浜市内各地で実施される、市民・文化団体が実施する、地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動を広く公募し、支援することで、文化芸術の持つ創造性を生かして、地域コミュニティの活性化に寄与します。(採択予定数 30件)		
また、季刊誌「ヨコハマアートサイト」の発行やウェブサイト・実施レポート等による広報、まちづくり等さまざまな分野と文化芸術の関わりについての意見交換を行う研修等を通して、参加団体をサポートします。		
(9) クラシック・ヨコハマ推進事業	9,000千円	(前年度 9,000千円)
国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催に合わせ、コンクール出場経験者をはじめとした若手演奏家に演奏機会を提供すること及び市民の皆様に身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシック音楽のコンサートを実施します。また、コンクールでは、市民の皆様が選ぶ聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。		
(10) 芸術文化支援事業	33,100千円	(前年度 50,100千円)
音楽、美術、舞台芸術などの分野において、市内の文化芸術活動の基盤となる文化事業(神奈川フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会等)を支援します。		
(11) 文化施設運営事業	3,345,749千円	(前年度 3,208,059千円)
横浜美術館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂、横浜にぎわい座等の文化施設の運営及び修繕等を行います。		
○ 横浜美術館運営費	837,929千円	
○ 横浜みなとみらいホール運営費	559,371千円	
○ 横浜能楽堂運営費	179,372千円	
○ 横浜にぎわい座運営費	242,133千円	
○ 関内ホール等文化施設運営費	1,090,680千円	
○ 文化施設修繕費等	436,264千円	

(12) 文化施設整備事業	354,770千円	(前年度 97,074千円)
地域特性等に応じて区民文化センターを整備することにより、市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うための環境づくりを進めます。		
8年度は、金沢区における区民文化センターの9年度中のしゅん工・オープンに向けて、7年度に引き続き工事を行います。		
(13) 文化施設機能強化事業	85,000千円	(前年度 -)
ふるさと納税による寄附金を財源として、横浜美術館や横浜みなとみらいホールなどでの新たな文化事業への補助や、文化施設の機能強化等のための改修を行います。現年度内に執行できない寄附金は、基金に繰り入れます。		
(14) 文化振興企画調査費（横浜版グリーンブック策定ほか）	2,582千円	(前年度 3,542千円)
本市の文化事業や文化施設運営におけるCO ₂ 排出量削減や循環型社会の構築に資する取組が求められている現状を踏まえ、8年度は、舞台装置の再利用、再生可能エネルギーの利用などを促進するガイドライン「横浜版グリーンブック」を策定し、持続可能な文化活動の促進につなげます。		
また、横浜美術館収蔵作品の収集のための美術資料収集審査委員会及び価額評価委員会の運営をするほか、文化行政推進のための一般的事務費を執行します。		
(15) その他の文化振興事業	47,150千円	(前年度 2,341,103千円)
大規模改修中の横浜能楽堂再開館（8年7月頃再開予定）に向けた経費の執行や、横浜文化賞の贈呈、指定管理者の選定・評価等を実施します。		

【終了事業】

（横浜未来の文化ビジョン（仮称）策定事業）

（前年度 10,000千円）

4款1項3目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
3 ス ポ - ツ 振 興 費	千円 4,588,061	千円 4,816,298	千円 △228,237	千円 -	千円 405,000	千円 230,363	千円 3,952,698

スポーツ振興部

- (1) **スポーツ関係団体支援事業** 443,609千円 (前年度 413,153千円)
 横浜市スポーツ推進委員連絡協議会や横浜市スポーツ協会をはじめとするスポーツ団体等との連携・協働により、誰でも身近な場所で気軽にスポーツを楽しむ環境をつくります。
- (2) **子ども・子育て世代のスポーツ活動支援事業** 16,957千円 (前年度 17,761千円)
 子どものスポーツ活動を促進するため、児童生徒を対象としたラグビー・インクルーシブスポーツ等の体験会を実施するほか、働く世代・子育て世代が気軽に安心してスポーツに取り組めるよう、託児サービスの提供や親子で共に楽しめるイベント等を開催します。
- (3) **スポーツ推進審議会費** 10,397千円 (前年度 2,329千円)
 スポーツの推進について審議するため、外部有識者で構成するスポーツ推進審議会を開催します。
- (4) **学校施設への夜間照明設置事業** 4,000千円 (前年度 61,973千円)
 スポーツをする場を拡充し、地域で気軽にスポーツに親しむ機会を創出するため、夜間照明設置にかかる実施設計を行います。
- (5) **市民参加型スポーツ推進事業** 8,849千円 (前年度 9,249千円)
 市民が身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを推進するため、市民参加型スポーツイベントを実施します。
- (6) **横浜マラソン開催事業** 108,812千円 (前年度 108,902千円)
 こどもから大人まで誰もが参加でき、「する」「みる」「ささえる」全ての人が楽しめる大会を開催し、市民の健康を増進するとともに、まちのにぎわいを創出します。
- (7) **インクルーシブスポーツ推進事業** 12,144千円 (前年度 13,004千円)
 共生社会の実現を目指し、関係団体と連携しながら、誰もが共に親しめるインクルーシブスポーツを推進するとともに、パラスポーツ競技の普及を支援していきます。
- (8) **スポーツ国際交流事業** 3,280千円 (前年度 3,800千円)
 韓国仁川広域市とのスポーツを通じた交流事業を行います。

(9) 大規模スポーツイベント等開催支援事業	161,201千円	(前年度 98,630千円)
「2026世界トライアスロン横浜大会」をはじめとする、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援等を行うことで、トップアスリートの競技を観戦できる機会を創出するとともに、スポーツ観戦者の市内回遊を向上し、市内経済の活性化につなげます。		
(10) トップスポーツチーム連携事業	7,298千円	(前年度 7,683千円)
横浜を本拠地とする13のトップスポーツチームとの連携・協働体制である「横浜スポーツパートナーズ」を通じて、スポーツ振興やにぎわいづくりにつなげます。また、チームと連携し、独自のふるさと納税返礼品を提供します。		
(11) スポーツボランティア育成事業	4,833千円	(前年度 5,087千円)
横浜市スポーツ協会が運営する「横浜市スポーツボランティアセンター」を通じたボランティアの発掘・育成・活動機会の創出に向けた取組を推進します。		
(12) 屋外プール再整備事業	280,104千円	(前年度 293,580千円)
本牧市民プールを運営するとともに、横浜プールセンターの検討にあたっては、財政ビジョン等を踏まえつつ、広く市民や事業者の皆様のご意見も伺いながら進めています。		
(13) 横浜BUNTAN及び横浜武道館管理運営事業	2,030,121千円	(前年度 1,971,370千円)
PFI事業契約に基づき、横浜BUNTAN及び横浜武道館の維持管理・運営を行います。		
(14) 横浜国際プール再整備事業	20,000千円	(前年度 50,000千円)
横浜国際プール再整備事業計画に基づき、誰もが共に多様なスポーツを楽しめるインクルーシブなスポーツ拠点として、次世代を育む複合型スポーツアリーナを目指します。PFIでの事業実施に向け、事業者の募集・選定業務を進めます。		
(15) スポーツ施設管理運営事業	1,424,456千円	(前年度 1,716,034千円)
各スポーツ施設の管理運営や必要な施設修繕を実施します。		
ア 体育館、プール等の運営等	1,350,749千円	
体育館やプール等のスポーツ振興課所管施設の管理運営を行うとともに、各区所管スポーツセンターの修繕等を実施します。また、市民利用施設予約システムの運用等を行います。		
イ スポーツ施設脱炭素化推進	73,707千円	
脱炭素化を推進するため、スポーツ施設の照明等へのESCO事業の運用や太陽光発電（PPA事業）の導入、LED化工事を計画的に進めます。		
(16) スポーツ・レクリエーション振興基金積立金	52,000千円	(前年度 -)
寄附金等を横浜市スポーツ・レクリエーション振興基金に積み立てます。		
【終了事業】 (横浜プールセンターPCB処理事業)		(前年度 43,743千円)

4	4款1項4目 にぎわい 観光M I C E 振興費	本年度 千円 6,591,530	前年度 千円 5,543,132	差引 千円 1,048,398	本年度の財源			
					国・県 千円 9,500	市債 千円 44,000	その他 千円 2,315,399	一般財源 千円 4,222,631

にぎわい創出戦略部

観光M I C E 振興部

- (1) 戰略的にぎわい創出事業 **308,476千円** (前年度 290,268千円)
 都心臨海部の水際線に数多く広がる魅力的な公共空間等を積極的に活用し、大規模イベントの開催を支援するとともに、IPコンテンツ等と連携することで、戦略的に回遊性向上・宿泊促進を図り、にぎわいの創出や市内経済の活性化につなげます。
 また、花火や早朝クルーズ、熱気球搭乗体験など「夜まで楽しめ、朝から楽しめる」コンテンツを造成し、宿泊需要の更なる喚起と観光消費の拡大を図るとともに、eスポーツを活用したにぎわい創出に取り組みます。
- (2) 創造的イルミネーション事業 **522,000千円** (前年度 360,000千円)
 「ヨルノヨ」では、まち全体が光と音楽が連動するスペクタクルショーなど、先端技術を用いた壮大な演出により、横浜ならではの魅力的な夜景を創出するとともに、都心臨海部の各地域のイルミネーションイベントと連携し、まちぐるみで回遊性の向上を図りながら、滞在時間の延長を通じたにぎわいづくりにつなげます。さらに、GREEN×EXPO 2027会期中も「ヨルノヨ」を開催し、都心臨海部のにぎわいを創出します。
- (3) フェスティバルによるにぎわい創出事業 **172,229千円** (前年度 180,816千円)
 「Live ! 横浜」は、同日に開催される都市型音楽フェス「CENTRAL MUSIC & ENTERTAINMENT FESTIVAL 2026」と連携し、音楽とエンターテインメントでまち全体を盛り上げます。公共空間・オープンスペースを活用し、市民の皆様・子どもたちが出演するステージや、子育て世代が気軽に楽しめる体験コンテンツなど、幅広い世代が楽しめるプログラムを展開し、回遊性の向上とにぎわい創出により市内経済の活性化につなげます。
- (4) DMO推進事業 **627,881千円** (前年度 627,292千円)
 DMOである横浜市観光協会において、今後の観光消費額を牽引するインバウンドに向けた海外からの誘客事業や、平日の誘客につながる記念日プラン造成など国内誘客事業を実施します。特に、GREEN×EXPO 2027の開催期間中の回遊性促進事業や、花をテーマとした花の港事業を都心臨海部を中心に展開します。これらの取組を効果的にプロモーションするため、観光公式ウェブサイトのリニューアルを実施します。
 また、データを活用したマーケティング分析により、地域や観光事業者など多様な関係者の事業展開を支援し、観光地域づくりの司令塔としてのDMO機能を充実します。
 さらに、M I C E におけるサステナビリティの対応力強化や、関連産業育成・ビジネス機会の増大、アフターコンベンションの促進等により、市内経済の活性化につながるM I C E 開催支援・受入環境整備を行うとともに、ターゲット会議のリサーチ、研究者等への支援を通じたネットワーク強化により、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等の誘致を推進します。
 引き続き、観光案内所の運営や市内事業者向けユニバーサルツーリズムに関するセミナーを開催します。

(5) 観光振興事業	232,963千円	(前年度 167,130千円)
観光施策立案の基礎データとして活用するため、国内外からの来訪者の実態を把握する観光動態消費動向調査を実施します。このデータ等を基に、各種メディア等を活用したプロモーションにより国内外からの誘客促進を図るとともに、クルーズ船旅客については、市内への宿泊や周遊を促すプロモーションを行います。また、ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業では、ブランドプロモーション等、販売促進につながる事業に対して支援を行うことで、横浜観光の魅力向上、市内経済の活性化を図ります。		
さらに、神奈川県と共に、JR 6社と地域が共同で実施するデスティネーションキャンペーンに取り組みます。		
(6) 三溪園施設整備等支援事業	219,435千円	(前年度 187,950千円)
三溪園は、都心近郊にありながら豊かな緑と静寂に包まれ、美しい庭園と歴史的建造物を有する「観光都市・横浜」を代表する資源で、2026年に開園120周年を迎える、翌年に開催するGREEN×EXPO 2027との連動を図りながら、世界的に旅行需要が伸び続けているインバウンドも視野に、ライトアップや和文化体験、各種イベントを充実させるなど、三溪園の価値・魅力を最大限に引き出し、磨き上げていきます。また、重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、緊急度の高い建造物から実施しています。8年度は、旧矢箇原家（やのはらけ）住宅、旧燈明寺（とうみょうじ）三重塔及び庭園の修繕等に対し、寄附金も活用しながら支援します。		
(7) 観光施設維持管理事業	130,040千円	(前年度 72,043千円)
本市の観光振興を図るため、所管施設（横浜人形の家、横浜マリンタワー等）の維持管理・運営を行います。		
(8) MICE誘致・開催支援事業	75,003千円	(前年度 179,303千円)
横浜市観光協会やパシフィコ横浜と連携し、キーパーソンとのネットワークづくりや、セールス活動で横浜開催を検討している会議を発掘し、トップセールスや誘致助成の交付によりMICE誘致を加速します。あわせて、各区局で行う政府系国際会議の誘致・開催支援活動等に対して、様々な形でサポートを行います。また、国際会議等の開催に合わせて次世代向けプログラムを提供します。		
(9) 減債基金積立金	942,599千円	(前年度 125,462千円)
(株) 横浜国際平和会議場貸付金の元金と利子収入を減債基金に積み立てます。		

(10) 20街区M I C E 施設整備運営事業**3,360,904千円**

(前年度 3,352,868千円)

「パシフィコ横浜ノース」について、P F I 事業により維持管理及び運営を行います。既存のパシフィコ横浜と共に、市内経済の発展・にぎわい創出へ貢献します。

■ 株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を設定。

- ・ 8年度設定額：468,000千円（7年度設定額：936,000千円）
- ・ 設定期間：8年4月～9年3月

1 団体の概要**<事業目的>**

国際・国内会議及び学術等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

<設立>

昭和62年6月3日

<基本金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：6年度決算

売上高	10,304,863千円
売上原価	8,006,539千円
営業利益	1,220,118千円
当期純利益	991,732千円

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを平成24年度に意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

7年度は催事件数も回復し収支も堅調に推移している。引き続き、売上の確保及び経費削減に取り組み、9年3月までに対象債務を返済する見通しである。

V 主な財源創出の取組

(単位：千円)

事業名	財源創出の内容	財源創出額
「創造・転換」による財源創出(歳出削減の取組)		
芸術文化支援事業	事業への支援を見直しすることで、負担金を削減	17,000
スポーツ関係団体支援事業	事業手法を見直すことで、補助金を削減	18,269
大規模スポーツイベント等開催支援事業	スポーツツーリズム推進において、事業手法や内容を見直すことで、委託料を削減	4,000
フェスティバルによるにぎわい創出事業	フェスティバル開催費において、イベントの運営方法等を見直すことで、負担金を削減	8,722
DMO推進事業	事業手法を見直すことで、補助金を削減	50,376
観光振興事業	事業手法を見直すことで、委託料を削減	10,795
「創造・転換」による財源創出(歳入確保の取組)		
横浜BUNTAI及び横浜武道館管理運営事業	土地貸付を行うことで、歳入を確保	8,277
三溪園施設整備等支援事業	国補助金を活用することで、歳入を確保	9,500
ふるさと納税の推進		
文化施設機能強化事業	企業版ふるさと納税等を活用することで、歳入を確保	75,000
映像文化都市づくり推進事業	企業版ふるさと納税を活用することで、歳入を確保	10,000
スポーツ関係団体支援事業	企業版ふるさと納税を活用することで、歳入を確保	14,500
スポーツ・レクリエーション振興基金積立金	企業版ふるさと納税を活用することで、歳入を確保	52,000
その他の財源創出(その他の歳入確保)		
横浜マラソン開催事業	横浜マラソンにおける各種検討・調整のための寄附受入により、歳入を確保	6,000